



2009年9月期  
第2四半期決算説明資料  
2009.05.18(東京) 2009.05.20(大阪)



Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## 決算概要と主要アクション



### 決算概要

- **売上高・受注高:**  
2008年11月末頃から受注が激減し、特に自動車産業からの受注は予算の凍結や先送りにより低迷しております。海外では韓国からの受注が大幅に減少しております。この結果、第2四半期累計売上高は前期比17.1%減収の2,755百万円、受注高も前期比50.3%減収の1,573百万円となりました。
- **四半期純利益:**  
固定費削減の対策等により営業利益率は微減に留まりましたが、有価証券や棚卸資産の評価損により四半期純利益は前期比68.5%減益の26百万円となりました。

### 主要アクション

- **鉄道車両機器用テストラボ開設:**  
需要が増加している鉄道車両機器用品や燃料電池等の大型試験品に対応した専用試験装置を設備した新試験棟を開設いたしました。代理店向け、ユーザー向けに施設見学会を開催し好評を頂いております。
- **海外展開強化:**  
欧州での製品販売に不可欠なCEマーキング対応製品の開発や中国最大の振動試験装置メーカーであるSTI社(蘇州蘇試試験仪器有限公司)との中国でのアフターサービス業務委託契約締結等、海外展開強化に向けた布石を打ちました。

### 今後の展開

- 明るい話題もありますが、実感するには至らず、先行きは極めて不透明な状況が続いております。損益分岐点を引き下げて何とか予算通りに着地させる努力を続けてまいります。

# 決算概要(連結)



(単位:百万円)

	09/9中間期 実績	08/9中間期 実績	増減額	増減率	09/9中間期 予算	増減率
売上高	2,755	3,325	△ 569	△ 17.1%	2,498	+10.3%
営業利益 (営業利益率)	113 (4.1%)	164 (4.9%)	△ 51	△ 31.2%	83 (3.3%)	+36.1%
経常利益 (経常利益率)	111 (4.1%)	175 (5.3%)	△ 64	△ 36.4%	92 (3.7%)	+21.4%
四半期純利益 (四半期純利益率)	26 (1.0%)	83 (2.5%)	△ 57	△ 68.5%	38 (1.5%)	△ 31.7%

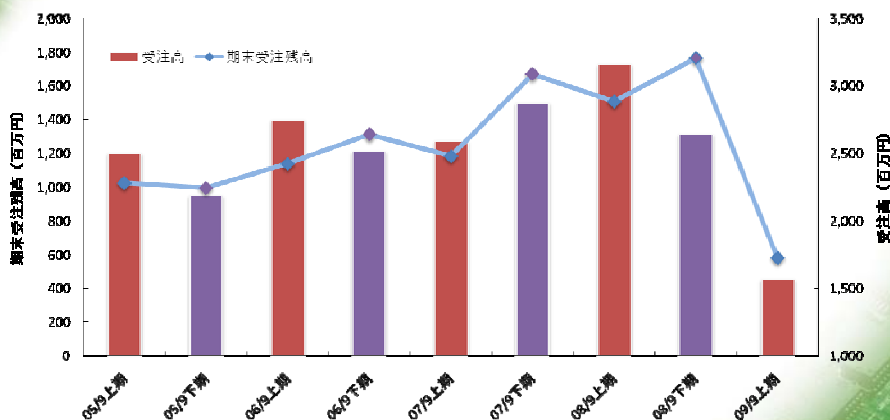
  

	09/9中間期 実績	08/9中間期 実績	増減額	増減率	概要
設備投資額	252	154	+97	+63.3%	鉄道車両機器用テストラボによる増加です。
減価償却費	121	118	+3	+2.9%	鉄道車両機器用テストラボへの投資に伴う増加です。
研究開発費	117	135	△ 18	△ 13.4%	振動シミュレーションシステム:58百万円 メチャングシステム:59百万円
従業員数※	222	216	+6	+2.8%	当期に入ってから4名減少しております。

※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

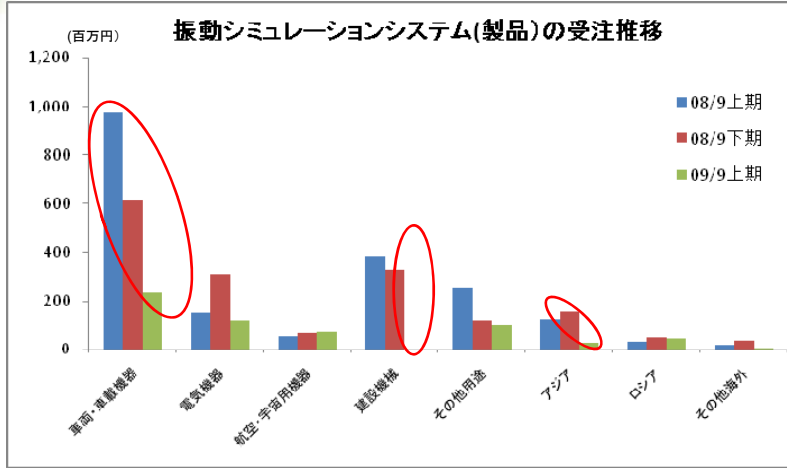
売上高は前期比569百万円減収の2,755百万円となりました。固定費の削減に取り組みましたが、売上減少に伴う限界利益の減少により、営業利益は前期比31.2%減益の113百万円、経常利益は36.4%減益の111百万円となりました。棚卸し資産の評価損や前期損益修正等の特別損失により、四半期純利益は前期比68.5%減益の26百万円となりました。

# 受注の状況(全社)



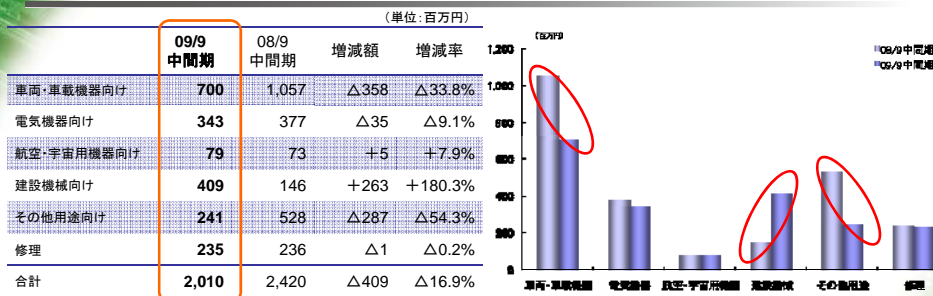
金融危機の影響により2008年11月頃から振動シミュレーションシステムを中心に全ての製品群で受注が急激に減少した結果、受注高は前期比50.3%減収の1,573百万円となりました。それに伴い期末受注残高は、前期比61.4%減収の582百万円となりました。

# 受注の状況(振動シミュレーションシステム)



振動シミュレーションシステム(製品)分野の受注について、自動車関連業界からの受注が低迷したほか、大型案件が続いていた建設機械業界からの受注が一段落したこともあり、大幅に減少いたしました。海外向けにおいては、ロシア向けが微減に留まっておりますが、韓国を始めとしたアジア向けの受注が減少いたしました。

# 振動シミュレーションシステム ~概況~



- 売上高は前期比409百万円減収の2,010百万円となりました。
- 建設機械業界向けに大型6自由度振動シミュレーションシステムの計上がありました。自動車関連の受注低迷、及び前年同期にはその他用途として食品業界や官公庁向けに大型案件があったこともあり、前年同期を下回る結果となりました。



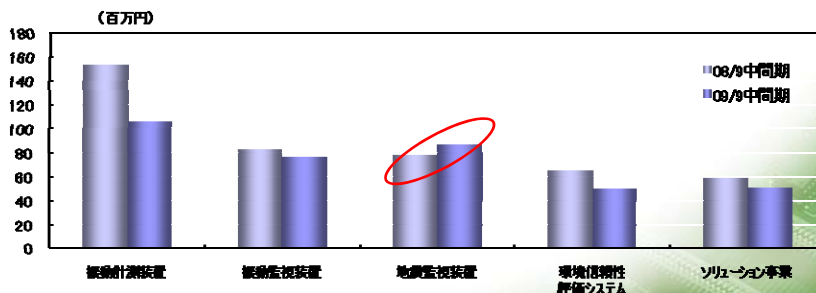
## メジャリングシステム ～概況～



(単位:百万円)

	09/9 中間期	08/9 中間期	増減額	増減率
振動計測装置	106	154	△47	△31.0%
振動監視装置	76	83	△6	△7.9%
地震監視装置	87	78	+9	+11.6%
環境信頼性評価システム	50	65	△14	△22.7%
ソリューション事業	51	59	△7	△12.2%
その他・修理	64	82	△18	△22.5%
合計	438	524	△86	△16.4%

- 売上高は前期比86百万円減収の438百万円となりました。
- 地震監視装置伸張  
地震防災機器営業所を新設し営業力を強化したことに加え、OEM供給先の更新需要が増加し売上に寄与しました。
- 市場環境悪化  
電気計測器全般の市場環境悪化により、振動計測装置をはじめ、多くの商品群で前期を下回りました。



7

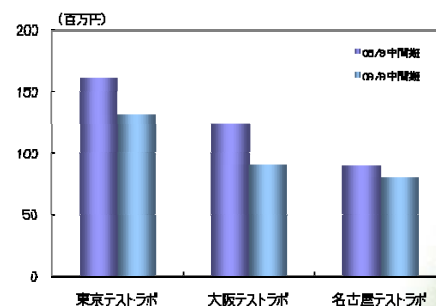
Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## テスト&ソリューションサービス ～概況～



(単位:百万円)

	09/9 中間期	08/9 中間期	増減額	増減率
東京テストラボ	131	161	△30	△18.7%
大阪テストラボ	91	124	△33	△26.7%
名古屋テストラボ	80	90	△10	△11.3%
子会社外部売上	4	4	+0	+1.5%
合計	307	380	△73	△19.4%



- 売上高は前期比73百万円減収の307百万円となりました。
- 大阪テストラボに鉄道車両機器用品や燃料電池等の大型試験品に対応した専用試験装置を設備した新試験棟を開設いたしました。
- 大阪テストラボに続き、東京テストラボ及び名古屋テストラボにおいて、ISO/IEC17025に準拠したIECQ独立試験所の認定を取得いたしました。
- 名古屋テストラボにおいて、衝撃試験装置及び落下試験装置を導入し、試験サービスの拡大を図りました。

8

Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## 業績見通し(連結概要)



(単位:百万円)

	09/9期 予想	09/9 中間期末実績	達成率	(参考) 08/9期末実績
売上高	4,641	2,755	59.4%	5,717
営業利益 (営業利益率)	67 (1.5%)	113 (4.1%)	167.7%	248 (4.3%)
経常利益 (経常利益率)	52 (1.1%)	111 (4.1%)	214.4%	292 (5.1%)
当期純利益 (当期利益率)	14 (0.3%)	26 (1.0%)	177.7%	147 (2.6%)
設備投資	345	252	73.0%	217
減価償却費	242	121	50.3%	225
研究開発費	195	117	60.1%	261
従業員数※	222	222	-	226
1株当たり 当期純利益	0.91円	1.61円	-	8.95円
1株当たり配当金※	4.00円	-	-	4.00円

- 受注動向の一部に改善の兆しは見えますが、以前先行きは不透明な状況であり、平成21年2月開示の業績予想から変更はありません。
- 徹底したコストダウンと経費節減を実施しておりますが、売上の減少による限界利益の減少により営業利益は67百万円、経常利益52百万円、当期純利益14百万円と予想しております。
- 設備投資や研究開発は、引き締め型の集中投資で費用対効果を高める計画です。
- 非正規従業員の削減により従業員数は減少する予定です。

※従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※09/9期の配当金につきましては、2009年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

9

Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## 今後の取り組み



① 全般	② 開発戦略
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協業分野と相手先の拡大</li> <li>● タイムリーなIR活動</li> <li>● 経費削減／残業規制・賃金カット／非正規社員削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ローエンド廉価版試験装置の開発</li> <li>● OEM振動計の開発</li> </ul>
③ 生産戦略	④ 財務戦略
<ul style="list-style-type: none"> <li>● コスト削減(標準化・調達先の複線化)</li> <li>● 引き締め型の集中的な投資計画への見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 引合から資金繰りまでの連動を強化し、予測更新をスピードアップ</li> <li>● 与信管理の能動化</li> <li>● 融資枠の確保</li> </ul>
⑤ 販売戦略	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特定分野への集中した販促活動の実施(詳細は次の<a href="#">スライド</a>)</li> </ul>	

10

Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## 販売戦略



### 特定分野への集中した販促活動の実施

分野	活動内容	期待効果
鉄道車両	TLと専用装置の拡販	5~10億
太陽光発電	リークテスターなどの特性評価測定器の拡販	1億
風力発電	専用監視装置の拡販	1億
EV・EHV・電池	カスタム試験装置の拡販	1~2億
海外	中国鉄道車両	5~10億
全般	省エネ試験装置(エコシェーカー)	2~3億

## 販売アクションプラン



### 方針

#### ● テーマごとのプロジェクト活動

新エネルギー・輸送環境・鉄道の3つのテーマごとに組織を横断したチームを設定し、活動を推進しています。

- 新エネルギー – 風力発電・太陽光パネル・燃料電池の課題に向けて –
- 輸送環境 – ロジスティックソリューションを主眼に –
- 鉄道 – テストラボ、保守メンテナンス用を手始めに –

#### ● 全社員営業支援

テーマに関する知り合いを全社員から提供し、チーム活動に活かしています。

## アクションプラン例



### ● 太陽光パネル

- 太陽電池モジュールの認定制度 (JETPVm) も整い、信頼性試験が本格化しております。
- マイグレーションテスターの技術を応用し、太陽光発電システム特性評価装置として提案を始めております。



### ● 輸送環境

- 飲料・遊技機・高級食材・医薬品メーカーにフォーカスし、輸送に関する課題に対してトータルでサービス提供することを提案しています。
- 路面データの採取活動や中国輸送環境セミナーを開催し、中国との輸出入に関して課題をお持ちの方を囲い込みます。



13

Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## アクションプラン例



### ● 鉄道

- 鉄道事業者、車両・部品メーカー、関係協会に各種ルートを通じてアプローチし、改訂規格の普及活動と共にテストラボの利用を提案しています。
- 保線、車両メンテナンス会社に対して、振動解析装置の提案をしています。



### ● 画像医療機器

- 振動による画像のブレなどの解析・対策の水平展開を行っております。



14

Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## 中期的展望

### 成長分野への取り組み

- 鉄道関連  
日系企業の海外での受注活動が活発化しています。増加するニーズにテストラボと製品供給の両面から対応します。
- 燃料電池車・ハイブリッドカー  
次世代自動車である燃料電池車やハイブリッドカーに搭載される、電池やモーターといった新しい試験需要に対応します。
- エコ発電  
風力発電や太陽光発電といったエコ発電の分野へ、関連製品を投入します。

### 中国市場への進出

- 大型投資への対応  
中国は2020年までに68兆円を投じて国内鉄道整備を計画しています。当社としてもこの機会を逃さないように、販売代理店との営業活動強化といった準備を進めています。

## 鉄道関連事業の強化



国名	企業名	概要	金額
イギリス	日立製作所	英国運輸省が発注した幹線高速鉄道の車両製造と保守事業について、日立を中心とする陣営の受注が内定。2013以降、ロンドンとエディンバラを結ぶ路線などで営業開始予定。	約9580億円
中国	日本電計等	中国は2020年までに約68兆円を投じて、国内鉄道網の総距離を50%増の約12万キロメートルにまで拡大する計画。日本電計は現地子会社、約15人で構成するプロジェクトチームを設置。高速鉄道網の整備やHVの開発に携わる中国企業の測定ニーズを収集し、日本製の機器の導入を積極的に提案する。	約68兆円 (総予算)
ドバイ	三菱重工・三菱商事・大林組・等5社連合	左記5社連合(リーダーは三菱重工)は、ドバイで全自動無人運転鉄道システムの第1期・2期工事を受注した。第2期工事は2010年3月の開業予定。	約3600億円
台湾	川崎重工業、日立製作所、丸紅	左記3社は共同で、台北・中正(CKS)国際空港と台北市内とを結ぶ鉄道建設計画における鉄道システム一式および車両基地の建設契約を受注した。全線開通は2013年9月を予定。	約910億円
シンガポール	川崎重工	中国の車両メーカーと共同でシンガポール向けに132両の鉄道車両を受注したと発表。2011年から2012年にかけて順次納入。	220億円



# ありがとうございました



代表取締役会長 小嶋 成夫

代表取締役社長 岡本 二郎

総合企画部長 秋吉 謙治

## お問合せ先

IR窓口: 総合企画部・IR担当 大和 充

TEL: 06-6478-2565 FAX: 06-6478-2567

E-MAIL: [imvir@imv.co.jp](mailto:imvir@imv.co.jp) <http://www.imv.co.jp>

## ○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

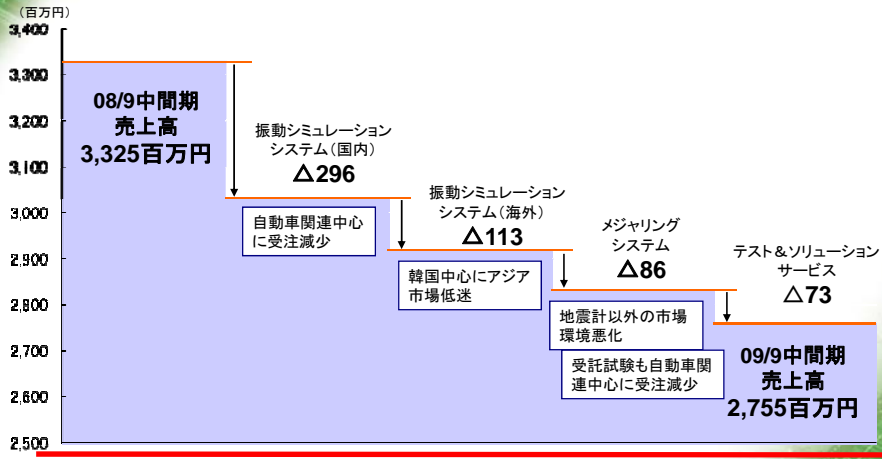
Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved



(ご参考資料)

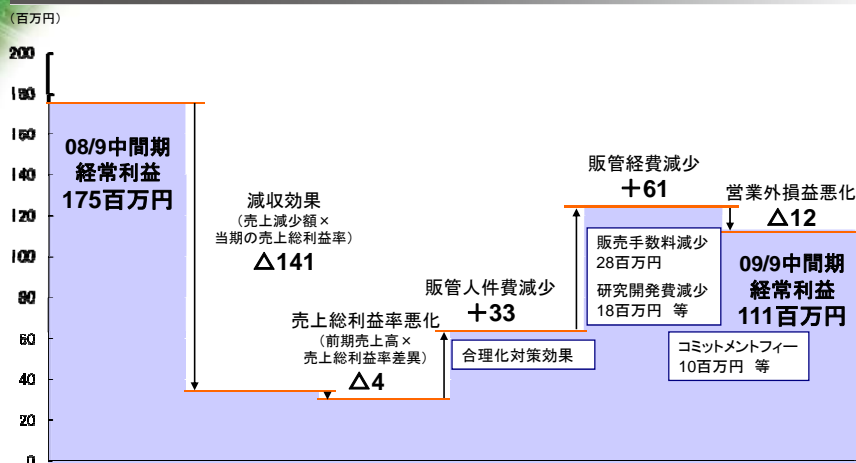


## 売上高減少の内訳(連結)



2009年9月期第2四半期連結累計期間の売上高は、国内自動車関連業界の受注減少や韓国市場を中心としたアジア市場の低迷に加え、計測器や受託試験の分野も受注が落ち込んだ結果、前年同期比569百万円減収の2,755百万円の売上高となりました。

## 経常利益減少の内訳(連結)



2009年9月期第2四半期連結累計期間の経常利益は、合理化効果による販管人件費の削減や、販売手数料や研究開発費の減少による販管経費の減少等がありましたが、売上減少による減益が響き、前期比64百万円減益の111百万円となりました。

## 連結貸借対照表の概要



(単位:百万円)

	09/9中間期末	08/9期末	増減額		09/9中間期末	08/9期末	増減額
流動資産	3,081	3,556	△474	流動負債	2,823	3,030	△207
現金預金	576	417	+159	仕入債務	1,182	1,182	△0
売上債権	1,600	2,053	△452	短期有利子負債	1,306	1,244	+61
棚卸資産	757	927	△170	その他流動負債	334	603	△268
その他流動資産	146	157	△10	固定負債	1,829	1,967	△137
固定資産	3,832	3,748	+84	長期有利子負債	1,551	1,639	△88
有形固定資産	3,327	3,199	+127	その他固定負債	277	327	△49
無形固定資産	74	86	△12	負債合計	4,652	4,997	△345
投資その他資産	430	461	△31	純資産合計	2,261	2,306	△45
資産合計	6,914	7,304	△390	負債・純資産合計	6,914	7,304	△390

資産の部 : 売上債権の減少452百万円及び棚卸し資産の減少170百万円により、流動資産が474百万円減少しました。鉄道車両機器用テストラボへの投資により有形固定資産が127百万円増加しました。

負債の部 : 未払い法人税の87百万円減少した事等により流動負債は207百万円減少しました。社債の償還等により固定負債が137百万円減少しました。

純資産の部 : 利益剰余金の減少39百万円等により純資産は45百万円減少しました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



(単位:百万円)

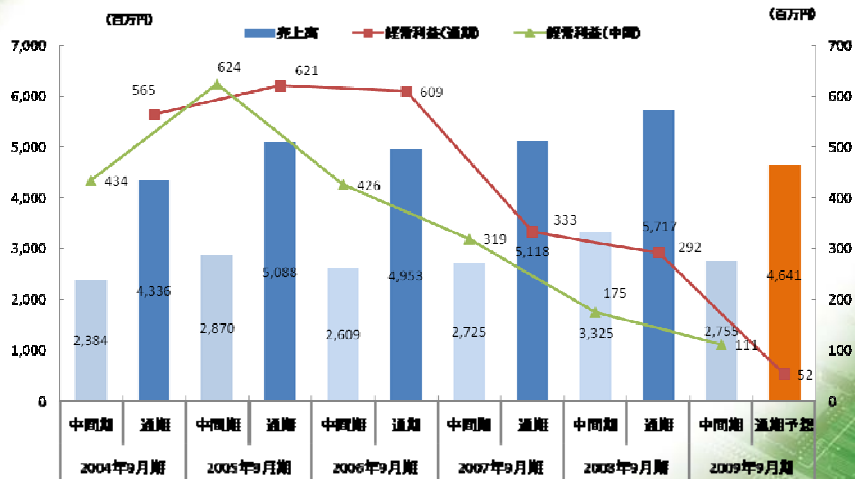
	09/9 中間期	08/9 中間期	増減額
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	460	120	340
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△202	244	△446
①+② フリーキャッシュフロー	257	364	△106
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△103	△203	99
④ 現金及び現金等価物に係る換算差額	△0	△0	△0
⑤ 現金及び現金同等物の増減額	153	160	-7
⑥ 現金及び現金同等物期首残高	358	218	139
⑦ 現金及び現金同等物期末残高	511	379	131

営業CF: 売上債権の減少676百万円、仕入債務の増加126百万円等による増加要因が、税前利益の減少183百万円、棚卸し資産の減少112百万円等の減少要因を上回ったことにより340百万円の増加となりました。

投資CF: 有形固定資産の取得による支出の増加210百万円や保険積立金の解約による収入の減少110百万円等による減少要因が、長期性預金の預け入れによる収入51百万円等による増加要因を上回ったことにより446百万円の減少となりました。

財務CF: 社債の償還による支出の減少150百万円や短期借入金の純増100百万円等の増加要因が、長期借入金の返済による支出の減少200百万円等の減少要因を上回ったことにより99百万円の増加となりました。

## 業績推移(連結)



23

Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## 会社概要(2008年9月期:連結)



社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)  
 証券コード : 7760 (ジャスダック証券取引所/精密機器)  
 設 立 : 1957年4月17日  
 事業概要 : 環境テストシステム(振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステム)の製造・販売及びテスト&ソリューションサービスの提供

代 表 者 : 代表取締役会長 小嶋 成夫  
 代表取締役社長 岡本 二郎

売 上 高 : 5,717百万円  
 経 常 利 益 : 292百万円  
 資 本 金 : 464百万円  
 従 業 員 数 : 226人 (57名の期中平均臨時従業員含む)

本社所在地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10  
 (本社/R&Dセンター/大阪工場/東京工場/東京各営業所/海外事業部  
 /大阪営業所/名古屋営業所/東京テストラボ/大阪テストラボ/名古屋テストラボ)

24

Copyright © IMV CORPORATION 2009 All right reserved

## 会社沿革



- 1957年 4月 株式会社国際機械振動研究所を設立
- 1974年 10月 会社更生法を大阪地裁へ申請  
小嶋成夫(現会長)が更生管財人として自力再建を開始
- 1985年 7月 残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
- 1994年 9月 日東精機株(現連結子会社)を100%子会社化
- 1998年 4月 国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
- 2005年 5月 本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
- 2005年 6月 大阪テストラボ開設
- 2005年 7月 ジャスダック証券取引所に上場
- 2007年 2月 大阪にショールーム開設
- 2007年 4月 会社設立50周年
- 2007年 9月 名古屋テストラボ開設
- 2008年 3月 大阪テストラボに鉄道車両機器向け新試験棟開設

## 経営ポリシー



# ***SECURE THE FUTURE***

～IMVが見守る未来～

## **FIRST choice for our Partners**

- Future** 安全を見つめて未来の社会に貢献します
- Integrity** 誠実で開かれたパートナーシップを大切にします
- Reliability** 製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます
- Strength** 振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します
- Technology** 顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します

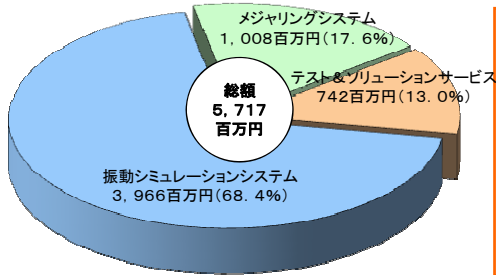
## 国内トップシェアを実現する3つの事業



振動を**再現**する  
振動シミュレーションシステム



振動を**計測**する  
メジャリングシステム



振動問題を**解決**する  
テスト&ソリューションサービス



## 振動シミュレーションシステムの用途 ～あらゆるシーンで使用されています～



自動車



航空宇宙



鉄道



輸送



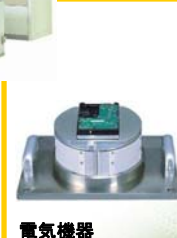
構築物



人体



電気機器

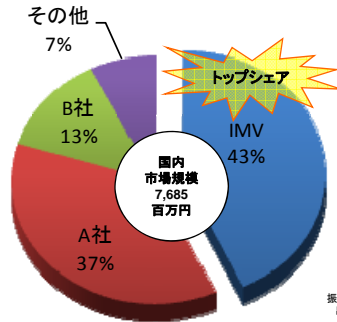


建設機器



## マーケットの状況 ～国内トップシェア～

【マーケットシェア】



振動シミュレーションシステムの市場規模  
出典：日本試験機工業会／平成17年  
帝国データバンク資料、会社ホームページ

【他社との比較】

	株式	得意分野	振動シミュレーションシステム構成要素	テストラボ	計測関連
	上場	フルラインナップ	全て自社製	3ヶ所	振動計測・監視装置、地震監視装置、MIG
A社	未上場	単軸・複合	他社より一部購入	1ヶ所	振動計（一部）
B社	未上場	多軸	他社より一部購入	なし	振動計（一部）

出典：帝国データバンク資料・会社ホームページ、その他当社調査による

## 用語説明

DSS……振動シミュレーションシステム（振動試験装置、複合環境試験装置）

MES……メジャリングシステム（振動計測装置、振動監視装置）

MIG……環境信頼性評価システム（マイグレーションテスター、導通信頼性テスター）

TSS……テスト&ソリューションサービス（テストラボ事業、ソリューション事業）